

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲第 1228 号	氏名	倉石 康弘
論文審査担当者	主査 藤永康成 副査 副島雄二・鷺塚伸介		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>自己免疫性膵炎(autoimmune pancreatitis; AIP)は、ステロイド治療(PSL)に対して良好な反応性を示し、以前は急性期の病態と考えられていたが、症例の蓄積とともに通常の慢性膵炎と同様な病態に移行しうることがわかってきた。過去の報告より、AIP が慢性膵炎に進展する機序として膵頭部腫大や膵管狭細化による膵液鬱滞が関与していると考えられる。PSL は短期的な治療効果は非常に良好であるが、長期的な予後に対する影響は明らかになっておらず、ガイドラインでも長期予後に対する治療選択は述べられていない。AIP における慢性膵炎進展に対して PSL が有効であるかどうかを検討した。</p> <p>当院にて 1 年以上経過観察した AIP 患者 145 例を対象として、慢性膵炎の確信所見である主膵管内結石や膵全体のびまん性石灰化を認めた症例を高度石灰化と定義し、後方視的にその有無を評価した。高度石灰化を合併した AIP 患者の臨床像、PSL 投与の慢性膵炎進展予防に対する効果を検証した。</p> <p>その結果、倉石は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 高度石灰化の合併は 13%に認め、高度石灰化進展例では膵内外分泌機能の低下や仮性嚢胞・慢性膵炎急性増悪などの合併症を認めた。</li><li>2. Kaplan-Meier 曲線を用いた解析では、PSL 投与群は非投与群と比較して有意に高度石灰化合併率が低かった。</li><li>3. 高度石灰化の合併は膵頭部腫大例でのみ認めた。膵頭部腫大例のみを対象として解析を行ったところ、PSL 投与群は非投与群と比較して有意に高度石灰化合併率が低く、全体例での解析(結果 2)と比較して Hazard 比が低くなっていた。</li><li>4. 膵頭部腫大例のみを対象として高度石灰化合併のリスク因子に関して多変量解析を行ったところ、高度石灰化の合併は PSL 投与群で有意に低く、診断時に主膵管拡張を認めた症例で有意に高かった。</li><li>5. PSL 投与群のみの解析では、再燃例で有意に高度石灰化の合併率が高かった。</li></ol> <p>以上より、PSL は慢性膵炎への進展予防に有用であり、特に膵頭部腫大例を対象とした治療は効果が高い。診断時に膵頭部腫大と主膵管拡張を伴った症例では慢性膵炎進展のリスクが特に高いことから治療導入の適応となる可能性がある。この結果は、AIP の長期予後を改善させるための治療戦略を考える上で一助になると思われる。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			